

育成 モノづくり人材

Vol. 33

愛媛県立今治工業高校

造船業、繊維業が盛んな愛媛県今治市にある機械造船科を開設して、今治工業高校は地域産業の発展に寄与する人材育成に力を入



西岡校長

造る。2016年度から機械造船科を開設した。さらに同科を対象に文部科学省の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」

【DATA】▷校長—西岡誠氏▷所在地—愛媛県今治市▷学科構成—機械造船科、電気科、情報技術科、環境化学科、繊維デザイン科▷総定員—200人▷主要設備—マシニングセンター、各種溶接機、CAD、エアジェット織機など▷主な進路—あいえず造船、浅川造船、今治造船、アイシン・エイ・ダブリュ、新来島どつく、京セラ、トヨタ自動車、マツダなど

造船教育、産業界と連携

(SPH)の指定も受けた。より産業界と近づいた新しい教育の枠組みが動きだした。今治工業高校は16年度の1年生から電気、情報技術、環境化学、繊維デザイン、新設の機械造船科の5学科で構成。各学科とも、し

でき、キャリア教育に「2年生でのインターンシップや3年生でのデュアルシステム、愛媛県の事業で企業技術者が出前指導する「匠の技教室」など実践的な教育も重視する。3年生の就業体験は「座学より深く学ぶことが

地域発展の要となる造船業の要望は強く、機械造船科の開設につながった。15年12月には愛媛県「高度な設備 全国でも例がないとい

う。造船分野では新設となるため、須崎工業高校や長崎工業高校など実績のある県外の造船教育実施校の協力も仰いでいく方針だ。今治工業高校の15年度の卒業生は72%が愛媛県内に就職した。このうちの58%が今治市内に就職。「地域就職の理解は広がっている」(西岡校長)。今後3年間のSPHの成果をモデルケースとして同校の各学科に展開するとともに、県内外へも普及を図る。地域を挙げて挑む人材育成が注目される。(松山支局長・森野学彦)

(金曜日に掲載)



浅川造船の進水式で、船の構造について説明を受ける機械造船科の生徒たち

業ニーズを学校の取り組みとすりあわせる連携体制が整った。さら